

平成 21 年度 継続評価書

- 研究機関 : (株)国際情報通信基礎技術研究所、(株)KDDI 研究所、東京大学、
パナソニックシステムネットワークス(株)、沖電気工業(株)、日本電気
(株)、大阪大学、日本電信電話(株)、慶應義塾大学
- 研究開発課題 : ユビキタス・プラットフォーム技術の研究開発(ユビキタスサービス
プラットフォーム技術の研究開発)
- 研究開発期間 : 平成 20 ～ 22 年度
- 代表研究責任者 : 大橋 正良

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)

■ 総合評価点 : 37点

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。研究開発成果が発散しないよう、各研究機関の連携を深める努力を継続的に行うことを期待する。

(コメント)

- アプリケーションとしての 3 種類の実証実験とシーズである SWG 成果との対応を継続的に検証していくことを期待する。
- その結果を成果のアピールに反映して欲しい。
- 世界をリードする成果の創出を期待したい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

当初の計画通りの成果が得られており、実証実験や研究機関連携において計画を上回る努力が認められる。

(コメント)

- ターゲットユーザ別の実証実験2件に加え、地域活性化を狙う実証実験を追加し多角的なフィードバックを得ようとしている点は評価できる。
- 研究分担組織横断的な目標を設定した新規SWG活動により、研究分担者成果の統合が期待される。
- 当初計画よりも多い、特許、研究発表、報道発表成果を得ている。
- 十分な成果発表が行われている。
- 一方で、成果が多岐に渡り過ぎる印象はあり、アピール時には重要成果の絞り込みを行ってもよいと思われる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

当初の予定通りに適切かつ効率的に使用されている。

(コメント)

- 計画通りに適切に執行されている。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

インテグリティの高い技術成果及び多角的な視点からの実証実験を目指し、体制、計画を見直しており優れている。特に実証実験に期待したい。

(コメント)

- 研究分担者間の連携を促進する SWG 活動により、技術成果の統合が期待できる。
- 産業側面の効果を見るための実証実験を追加することを検討している。
- ユビキタス端末技術と連携して実証実験を実施する点は評価できる。
- アプリケーションとしての3種類の実証実験とシーズである SWG 成果との対応を継続的に検証していくことを期待する。
- 実証実験時の外部評価をフィードバックとして今後の研究開発に活用してほしい。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

効率的な予算計画が組まれている。研究開発内容からみても妥当である。

(コメント)

- 技術開発と実証実験に適切に予算が計画されている。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 9点

(総論)

プラットフォーム技術開発と実証実験に必要な多様な能力を有する多数の研究機関が参加しており、共同して研究成果を出せるように、適切なチーム連携が行われる体制を整えている。

(コメント)

- 研究課題分担とSWG単位の活動目標とでマトリクス的な分担体制を構築している。
- 技術開発と実証実験に必要な多様な能力を有する研究機関が参加している。
- 参加機関は申し分ない。一方で、適切な機関連携に向けた方向付けが重要になると思われる。